

令和 7 年 度 事業計画書

公益財団法人滋賀県希望が丘文化公園

令和7年度は、第5期1年間の指定管理者として管理運営を行う年度となる。そして、昨年8月、県において策定された「希望が丘文化公園活性化方針」に基づいた事業が推進されるとともに、「わたSHIGA輝く国スポ・障スポ2025」が開催されるなど重要かつ記念すべき1年となる。

併せて、開園以来、管理運営を担ってきた当財団のあり方の検討もなされ、大きな転換期を迎えることとなるが、培ってきた長年の経験と実績を基に、指定管理者としての使命を果たすべく、経営目標の達成や提案事項の遂行に注力し、安心・安全・快適な管理運営と魅力的な事業の推進に邁進していく。

加えて、国民スポーツ大会の開催に向けては、当公園がラグビーフットボール競技の会場となるため、施設の維持管理に万全を期し、積極的な広報を行うとともに、県と綿密な連携を図りながら、財団挙げて大会の成功に向けた役割を果たしていく。

一方、コロナ禍以降、来園者数や施設利用者数が徐々に回復傾向にある中、これまでの取り組みの実績や成果を十分に点検・検証し、恵まれた公園の自然環境や資源を最大限に活かして、さらなる利用者サービスの向上や多彩な事業展開による魅力的な公園づくりを目指すとともに、広報の充実により全国に向けた希望が丘の発信に努める。

開園54年目となる施設・設備は、経年劣化による損傷のため修繕や老朽化対策が常時必要となっている他、広大な公園内のライフラインをはじめ、中央道、河川、自転車道、森林や芝生地など、自然公園の維持管理には、安心・安全ならびに保護・保全の確保に細心の留意を払っていく。

また、気軽に楽しみながら健康づくりのできる取り組みや各種スポーツ大会の開催などにより、国民スポーツ大会の開催機運の醸成を図るとともに、子どもたちには集団宿泊やキャンプ活動を通して、自然や仲間とのふれあいの中での様々な体験活動を推進して、たくましく生きる力を育成する。

新規事業では、企業やNPO法人等の公園内でのCSR活動や社会貢献活動を支援することで連携を拡大していく「アクティブ団体事業」や「希望が丘 企業・団体連携による森づくり活動」、紅葉の美しい11月の3日間に全駐車場の駐車料金を無料とした「特別企画」を実施する他、県民ニーズの高いフリーマーケットは「フリマフェスタ」として、年5回（10日間）に拡充して開催し、県民の交流・交歓の機会を提供していく。

さらに、広報の充実を図るため、新たに「広報戦略会議」を設置し、イベント情報の他、移り変わる自然など様々な情報提供をInstagramをはじめとしたSNSの活用の強化策や発信力の高い効果的かつ効果的な広報・PR活動のあり方を検討し実践していく。

〔希望が丘文化公園の運営〕

1 基本方針

（１）自然と人との共生

希少植生物の保護や荒廃が進む森林の保全に的確に対応するなど、豊かな自然を保護、活用し、多くの来園者が自然の恵みを享受することによって、逞しい人間力と豊かな人間文化力を育む公園として、100年後も栄える滋賀のもりづくりに貢献する。

（２）教育的機能の発揮

スポーツ、宿泊、野外活動、その他の施設を活用して、あらゆる年代の人々の共同宿泊活動や野外活動、スポーツ活動を促進し、これらの活動から得られる社会性や創造性など望ましい人間性を高めることにより、世代に応じた人間力と人間文化力の向上を図る公園として、100年後も栄える滋賀のひとづくりに貢献する。

（３）ふれあい公園の創出

来園者の誰もが憩い、楽しみ、交流・交歓できる景観の創出や行事の実施など、“ふれあいの場”を提供することによって、家族が、友達が、知る人も知らない人もともに声をかけ、あいさつを交わし、笑顔が溢れる豊かな人間性を育てる公園として、100年後も栄える滋賀の活力づくりに貢献する。

(4) 納得の管理運営

公園設置53年の歴史を活かし、来園者はもとより公園設置者、公園管理者も自信と誇りの持てる納得の管理運営を確保し、大切な県民の財産として100年後も誇れる管理運営を行う。

(5) 来園者を優しく見守る管理運営

公園設置53年の継続した管理運営の実績を活かして、常にお客様の立場に立った安全性や利便性を追求し、お客様の全てを優しく見守る公園として、管理運営を行う。

2 経営目標

(1) 管理運営目標

ア 自主財源率の目標

自主財源率：

令和5年度実績 28.8 % → 令和6年度見込 31.0 % → 令和7年度目標 32.6 %

<実現策(新規)>

(ア) スポーツゾーンは、今年度開催される「わたSHIGA輝く国スポ・障スポ2025」のラグビーフットボール競技の試合会場となるが、青年の城では大会スタッフや大会警備関係者の宿泊を積極的に受け入れ、大会の成功に向けた役割を果たすとともに、施設利用料金の増収を図る。

<実現策(継続)>

(イ) わんぱくキャンプは、文部科学省の体験活動等を通じた青少年自立支援プロジェクトに、なでしこサッカー大会はスポーツ振興基金助成等の申請を行い、事業委託料や補助金を確保する。

(ウ) 社会教育、自然環境保全、野外活動およびスポーツ等の一連の取り組みが拡充できるように、「希望が丘みらい基金」や各種助成金・協賛金、広告料等の獲得により、企業、各種団体、さらには事業参加者などへ積極的に協力・支援を働きかける。

(エ) 3月から9月末までの月曜日（祝日の場合はその翌日）は、すべて開園する。なお、10月から2月末までの月曜日は休園日とするが、利用の申し出があれば積極的に受け入れて部分開園の措置を講じる。

(オ) 来園者数、施設利用者数および事業参加者数を増やすため、それぞれの目標に向けた実現策に、各担当ごとに果敢に取り組み、利用料金収入の増収を図る。

(カ) 安心・安全を第一に考え「効率的かつ効果的な業務は外部に委ねる」ことを基本として、利用者サービスの向上とコスト削減を図る。併せて、職員の技術・経験を活かした直営修繕によって即応性を高め、経費削減を徹底的に行う。

(キ) 持続的な環境負荷低減活動を推進し、省資源化および省エネルギー化により、経費の削減を図るとともに、自然や環境に配慮した事業やサービスの提供に努める。

イ 来園者数の目標

来園者数：

令和5年度実績 842,847人 → 令和6年度見込 915,000人 → 令和7年度目標 930,000人

<実現策(新規・見直し)>

(ア) 紅葉の季節の3日間（11月22日から24日まで）は東・西・南の全駐車場の利用料金を無料とし、公園を身近に感じていただける期間とするとともに、マイクロバスで園内を周遊するサービスを提供し紅葉を満喫していただく。併せて、その期間に全園、各施設において多彩な体験活動のできる「特別企画」を計画し、多くの来園者を見込む。

(イ) 「広報戦略会議」を立ち上げ、SNSの積極的で効果的な発信やホームページの内容の充実を図り来園者増に努める。また、県内企業へのトップセールスや、県内外の学校団体、子ども会、スポーツ少年団へのイベントガイドやパンフレットの効果的な配布など、営業活動の強化策を講じる。

- (ウ) 子ども広場の遊具の撤去に伴うその代替プランとして、フィールドアスレチックの幼稚園、保育園等の遠足等の利用については、入場料を無料として園行事や諸活動のプログラムに利用いただけるようサービス向上に努める。
- (エ) 人気の高いフリーマーケットを通して、家族や仲間との交流・交歓を深める場を提供する「フリマフェスタ」を年間通して開催し、公園の賑わいを創出する。

<実現策（継続）>

- (オ) 「希望が丘書道展」を継続開催し、県内全域の小中学生に広く周知を図り文化ゾーンの賑わいと来園者増を図る。また、青年の城中ホール展览展示スペースを広く県民の文化活動の発表や紹介の場に活用していただき、来園者の裾野を拡大していく。
- (カ) 財団が実施しているフィールドアスレチック事業について、自然とのふれあい、健康づくりの場となるよう、継続して12月から2月の第4土曜日を「希望が丘フィールドアスレチックふれあいサタデー」として1日間無料開放し来園者増を図る。
- (キ) 様々な駐車料金の回数券(1万円：普通車500円券1冊30枚綴り・5千円：普通車500円券1冊13枚綴り・2千円：普通車500円券1冊5枚綴り)を販売し、利用者のニーズに応えるとともに、駐車料金の割安感をアピールすることで利用者サービス・利用拡大に向けた取り組みを行う。
- (ク) マイクロバス2台体制で青年の城宿泊者のスポーツ施設やキャンプ施設との併用利用に対応する他、園内移動や輸送などの送迎サービスの充実を図り来園者および施設利用者の増を図る。

ウ 施設の利用者数の目標

施設利用者数：

令和5年度実績 204,988人 → 令和6年度見込 220,000人 → 令和7年度目標 228,000人

<実現策(新規・見直し)>

- (ア) スポーツゾーンでは、今年度開催される「わたSHIGA輝く国スポ・障スポ2025」のラグビーフットボール競技の試合会場となるため、施設の維持管理とともに万全の受け入れ体制を整える。
青年の城では大会スタッフや大会警備関係者の宿泊を積極的に受け入れ大会の成功に向けた役割を果たすとともに、施設利用者数の確保に努める。
- (イ) 財団のSNSを積極的に活用し「わたSHIGA輝く国スポ・障スポ2025」や公園各施設の魅力を広報・発信し施設利用者の獲得に努める。
- (ウ) 球技場の照明設置後、夜間の利用ニーズは高くなっていることから、体育室の夜間利用と併せてそのPRおよび利用促進に努める。

<実現策（継続）>

- (エ) 10月から2月末までの月曜日を休園日とするが、休園日前日の宿泊を希望される場合には、翌朝の退園まで利用いただけるよう柔軟な対応を行う。
- (オ) 野外活動センターにおいては、家族やグループで利用しやすい持込テントのスペースを拡充し、利用しやすさをPRして利用促進に努める。
- (カ) キャンプ場への車両の乗り入れについては、持ち込みテントのスペース増大に伴い、可能な限り車両をサイト近くで駐車できるように配慮し、利便性の向上を図る。
- (キ) スポーツゾーンの開園時間は4月から9月末までの間、午後6時まで1時間延長する。
- (ク) スポーツ施設の利用は、要望があれば午前7時からの早朝利用、さらに照明設備のある体育室は、最終午後9時まで夜間延長利用にも対応する。
- (ケ) 新規利用者の開拓やリピーターの確保のため、利用状況や社会情勢の分析を随時行い、京阪神方面や中京圏の学校、団体等に公園PR、施設利用案内のDMを行う。

エ 事業参加者数の目標

事業参加者数：

令和5年度実績 72,219人 → 令和6年度見込 87,000人 → 令和7年度目標 90,000人

<実現策(新規・見直し)>

- (ア) 企業やNPO法人等の公園内でのCSR活動や社会貢献活動を支援、発信する「アクティブ団体事業」や「希望が丘 企業・団体連携による森づくり活動」を新規事業として取り組み連携団体の拡大を図るとともに、多くの県民に参画していただける公園運営を目指す。
- (イ) 紅葉の美しい11月に「紅葉特別企画」として、3日間、全駐車場の駐車料金を無料とし、公園を身近に感じていただける期間とするとともに、マイクロバスで園内を周遊するサービスを提供し、紅葉を満喫していただき、広く希望が丘の周知を図る。
- (ウ) 森林保護・保全の取り組みの一環として「森づくり活動の日」を定め、近隣の企業、関係団体等と連携・協働しながら、森の下草刈りや間伐等を行い、景観の創出と里山機能の復活、生物多様性・希少種の保護・保全に取り組む。
- (エ) 年間を通して開催する「フリマフェスタ」では、広大なフィールドを活用してフリーマーケットコーナーを設け、子どもから高齢者まで幅広く誰もが気軽に楽しめる憩いの場を提供するとともに多彩なプログラムを提供し、参加者増を図る。

<実現策(継続)>

- (オ) 県書道協会と連携して取り組む「希望が丘書道展」では、青年の城を文化活動の拠点として発信し、新たな参加者の拡大を目指す。
- (カ) 「希望が丘魅力発信事業」としてSNSを活用するとともに、地元2市1町で開催されるイベントや県内の関係する施設等に積極的に出向き、公園の体験プログラムの紹介や事業のPRを行い、事業参加者の拡大を図る。
- (キ) 参加定員を超えて申し込みをいただく事業については、安易に選外とはせず、安全対策を十分に考慮したうえで、可能な限り定員枠を拡大して受け入れられるように考慮する。
- (ク) 「紅葉特別企画」「ビワイチプラス体験イベント」開催時にレンタサイクルを無料にし、事業参加者の増を図る。
- (ケ) 受益者負担を原則とするが、できるだけ手頃な参加料金で県民ニーズの高い事業を企画するとともに、安全面や指導体制を万全に確保したうえで開催する。

オ 施設利用者および事業参加者の満足度の目標

満足度：

令和5年度実績 98.5% → 令和6年度見込 98.0%以上 → 令和7年度目標 98.0%以上

<実現策(新規・見直し)>

- (ア) 新規に団体を対象にした「アクティブ団体事業」や「希望が丘 企業・団体連携による森づくり活動」を実施することで、県民参加による魅力溢れる公園づくりを推進し、来園者の満足度向上を図る。

<実現策(継続)>

- (イ) 来園者および事業参加者ならびに施設利用者へのアンケート実施のほか、対話による意見収集などを集計・分析して、公園の管理運営に活用する。
- (ウ) 利用者ニーズの把握や施設運営への反映の取り組みについては、公園運営推進協議会や公園利用者懇話会のメンバーに内容を公開し、意見を伺う。
- (エ) 来園者からいただいたすべての意見・要望や対応については、公園内運営会議で課題を共有し、対応方法および業務改善策を協議・決定する。
- (オ) 利用者トラブルの未然防止のため、日頃から目配り、気配りを心がける。苦情が発生した時は、迅速に誠意を持って、真意を理解し、納得いただけるまで丁寧に対応する。また、改善策を検討し、再発防止に努める。

（２）管理運営の新たな視点と主な取り組み

- ア 53 年が経ち経年劣化による施設・設備の損傷が多く見られる。また、森林の保護・保全にも改善の必要箇所が後を絶たない。416ha を有する広大な公園内の安心・安全の確保のため、施設の老朽化対策や修繕対応には万全を期していく。
- イ 紅葉の３日間を東・西・南の全駐車場の利用料金を無料にし、希望が丘を身近に感じていただける期間とするとともに、マイクロバスで園内を周遊するサービスを提供し、紅葉の希望が丘を満喫していただく機会を提供する。
- ウ 駐車料金の徴収や普通車 500 円が高いという声が多くある。頂戴した駐車料金は広大な希望が丘の自然の保護保全や施設の維持管理に役立てられていることを丁寧に説明し理解を得ていく。
- エ 来園者および施設利用者の園内移動や荷物輸送などの送迎サービスが好評であることからマイクロバス 2 台による効率かつ効果的な運行計画により、青年の城宿泊者のスポーツ施設やキャンプ施設との併用利用促進や来園者の拡大を図る。
- オ 利用者ニーズを把握するため、「ご利用者の声」箱の設置、利用者や参加者へのアンケートに加え、対話を通して来園者の生の声を取り入れる。また、意見・要望やアンケート結果は、業務改善や公園管理に速やかに活かしつつ、PDCA サイクルによるサービス水準の確保向上に努める。
- カ 環境負荷低減やCO₂・ゴミ排出量削減、環境教育等に努め、快適な公園づくりに取り組む。また、廃棄物「ゼロ」を目的とした、ゼロエミッションの考え方を森林整備に導入し、廃材や間伐材の活用に努める。
- キ 日常・定期的な安全点検に加え、利用シーズン前、豪雨、台風、降雪後等においては、より一層慎重な点検を実施する。また、警報等の発令によっては臨時に休園措置を講ずるほか、利用者の安全確保・事故防止に万全を期するとともに、職員の危機管理意識・能力の向上を図る。
- ク 管理運営や事業推進において、工夫・改善、新たな取組などの提案の受け皿を設け、実現可能かつ有効なものは積極的に業務に活用していく。
- ケ 園内モニタリングや職員研修を定期的に行い、すべての業務において適正な事務処理の徹底に努める。

（３）事業推進の新たな視点と主な取り組み

- ア 「わたSHIGA輝く国スポ・障スポ 2025」の開催機運を盛り上げるとともに県民総参加の大会を目指すため、当公園の文化・スポーツ事業を「わたSHIGA輝く国スポ・障スポ文化プログラム事業」として登録し、県内外に広く発信する。
- イ 「広報戦略会議」を立ち上げ、SNSを中心に事業開催の広報のみならず、事業実施後の事業成果まで、しっかり発信することにより、希望が丘の魅力や当財団の役割を広く周知されるよう取り組む。
- ウ 新規に団体を対象にした「アクティブ団体事業」を実施し、公園内での登録団体等の活動を促進する仕組みづくりを確立する。
- エ 森林保護・保全の取り組みの一環として「森づくり活動の日」を定め、近隣の企業、関係団体等と連携・協働しながら、森の下草刈りや間伐等を行い、景観の創出と里山機能の復活、生物多様性・希少種の保護・保全に取り組む。
- オ 駐車場利用料金を無料とする紅葉の３日間を活用し、全ての施設で多彩な体験活動を提供する他、マイクロバス周遊サービスや、自然散策、ハイキング、ジョギングにサイクリングを楽しんでいただける特別企画を打ち出す。
- カ 文化ゾーン活性化を目的に実施した「森のメッセージ事業」において作製された、森の中の素材を活用した造形物を中央道沿いに展示し、来園者の目を楽しませるとともに親しみやすい公園づくりに努める。また、青年の城中ホールの展示スペースを県民の文化活動の発表や紹介の場に活用していただけるよう検討する。

- キ 次代を担う子どもたちに「きぼっこ体験事業」を通じて、豊かな人間性、創造性を育む取り組みを継続して実施するほか、未就学児や小学低学年からの自然体験活動に注力するとともに、広く楽しみながら自然に親しみ、学ぶ場を提供する。特に、「わんぱくキャンプ」については、6泊7日の日程で計画し、リアルな体験活動を重視する。
- ク 引きこもり状態に陥るのは自己責任ではなく、社会全体で取り組む課題として捉えることから、引きこもりの人へのサポート事業「リトリートキャンプ」を関係団体(者)と連携・協働して挑戦する。
- ケ 子どもから高齢者までの世代をつなぎ、四季折々に公園を訪れるきっかけとなる「フリマフェスタ」はフリーマーケットコーナーを通して、広く県民に交流・交歓の場を提供する。
- コ あらゆる年代の方々がスポーツに気軽に親しみ、楽しみながら健康づくりに役立つ取り組みやスポーツの楽しさを感じながら仲間との交流を深める大会など、関係機関、地元市町や各種団体と連携しながらスポーツ・健康づくりを推進する。
- サ キャンプリーダーは、新規募集から養成講習、研修、実践を計画的に行い、人材育成と事業参画の機会を拡充する。また、地元中学校の職場体験学習や県内大学とのインターンシップについては、それぞれの意向を汲んで積極的に受け入れていく。

3 事業内容

別紙のとおり

■ 令和7年度 事業内容

番号		事業名	事業内容	開催予定日	参加費
1	交流・憩い場の提供	新緑のフリマフェスタ	新緑の時期に、フリーマーケットを開催するとともにNPO法人等と連携し、にぎわいを創出する。	5月 年間1回	5,000円以下
2		初夏フリマフェスタ	公園の中央道を活用し、家庭の不要品や手づくり品を対象とした根強い人気のフリーマーケットを開催し、県民の交流を図るとともに、キッチンカーを出店するなどしてにぎわいと憩いの場を提供する。	6月 年間1回	5,000円以下
3		秋のフリマフェスタ	秋の行楽シーズンにフリーマーケットを開催し、NPO法人と連携し親子の絆や仲間の交流を深める場を提供する。	9月 年間1回	5,000円以下
4		紅葉のフリマフェスタ	紅葉の時期に、希望が丘を訪れるきっかけとなるフリーマーケットを開催してにぎわいを創出し、当公園のPRを図るとともに認知度を高める。	11月 年間1回	5,000円以下
5		春のフリマフェスタ	春のすがすがしい季節に、フリーマーケットを実施してにぎわいを創出し、当公園のPRを図るとともに認知度を高める。	3月 年間1回	5,000円以下
6		希望が丘紅葉特別企画	園内の全駐車場を3日間、無料開放し、クラフトづくりや軽スポーツ体験の場を提供し、多くの県民の方々に公園を身近に感じていただける機会とする。	11月 年間1回	3,000円以下
7		○共催事業 けんせつみらいフェスタ	スポーツゾーンで重機の体験コーナーやステージコーナーを設け、建設の仕事を楽しみながら学ぶ場を提供する。	9月 年間1回	無料
8		○共催事業 よさこいソーランの競演	よさこい方式でのお祭りで、各団体はすべて持ち込みによる演奏とし、中央道およびエリア指定での演奏とする。よさこいの醍醐味を演者も来園者も楽しんでいる。	11月 年間1回	無料
9		○共催事業 湖国ハンドメイドフェスティバル	広大な芝生ランドで体験型のハンドメイドマルシェを出展する。公園の魅力発信とともにハンドメイドの楽しさを体験していただく。	3月 年間1回	5,000円以下
10	連携・協働	希望が丘書道展	公益社団法人滋賀県書道協会と連携し書道を通じて小中学生に自然や仲間とのふれあいの大切さを学んでいただく機会とする。	審査8月 展示8月～10月	無料
11		希望が丘魅力発信事業	各種SNSやHPによる情報発信や、半期毎のイベントガイド作成、全園事業の発信等による広報とともに、各種イベントに出展するなどして公園の認知度と親和度を高める。	通年	500円以下
12		公園サポーター事業	ボランティア活動に意欲のある人材を募集し、参画と協働を促進するとともに公園活性化を図るとともに、新たに団体を対象とした仕組みづくりを進める。	通年 活動随時	無料
13		アクティブ団体事業	公園内でCSR・社会貢献・環境保全を目的として活動する団体を支援するとともに、団体と連携・協働し公園の活性化を図る。	通年 活動随時	無料
14	スポーツ推進づくりの	希望が丘 企業・団体連携による森づくり活動	森づくり活動の大切さを公園から発信し、自然環境の価値を再認識することを目的に、県内の企業・団体等と連携し、下刈り、除伐といった森づくりの活動を行い里山機能・自然公園機能の活性化を図る。	11月 年間1回	無料
15		希望が丘ハイキング	自然環境に恵まれた希望が丘とその周辺地域を活用し、自然の中に身を置くことにより心身の健康増進に取り組む場を提供する。	4月・11月 年間2回	500円以下
16		希望が丘ランニングスクール2026	陸上競技場でランニングの基本を学び、スポーツを楽しむ、参加者の交流を深める場を提供する。	1月 年間1回	1,000円以下

番号	事業名	事業内容	開催予定日	参加費
17	希望が丘カップ グラウンド・ゴルフ大会 ①月例大会 ②グランドチャンピオン大会 ③希望が丘カップ2025アフターマッチ	各8ホール4コースでスコアを競う。 ①月例大会:各回80名×2部×9回 ②グランドチャンピオン大会:100名×1部 ③希望が丘カップ2025アフターマッチ:120名×1部	①4月~1月 (年9回) ②③3月	1,000円以下
18	○共催事業 第38回滋賀県グラウンド・ゴルフ春季大会決勝大会	常設コースを使用して滋賀県グラウンド・ゴルフ協会と開催し、生涯スポーツの振興、健康づくり、仲間づくりの場を提供する。	6月 年間1回	共催団体(滋賀県グラウンド・ゴルフ協会)が徴収
19	○共催事業 第38回滋賀県グラウンド・ゴルフ秋季大会決勝大会	県内各地で予選を開催。決勝を常設コースを活かし、滋賀県グラウンド・ゴルフ協会と開催。生涯スポーツの振興、健康づくり、仲間づくりの場を提供する。	10月 年間1回	共催団体(滋賀県グラウンド・ゴルフ協会)が徴収
20	○共催事業 希望が丘トレイルランニングレース2025	広大かつ安全な園内環境を最大限活かし、当公園と隣接する三上山を舞台に開催するトレイルランニングレース。希望が丘トレイルランニングレース実行委員会と共催。	4月 年間1回	共催団体(レース実行委員会)が徴収
21	○共催事業 滋賀県スポーツ少年団サッカー交流大会 U-10 2025 in希望が丘	大会への参加機会が少ない小学校4年生以下のチームを対象に、スポーツを楽しみ、仲間との交流を深めることができる場を提供する。	6月 年間1回	共催団体(滋賀県スポーツ少年団)が徴収
22	○共催事業 滋賀県高等学校駅伝競走大会(男女)	滋賀県高等学校体育連盟に加盟する学校の生徒が、近畿大会・全国大会の出場を目指して競い合う全県規模の大会。青少年の体力増強と健全育成を目的とする。	11月 年間1回	共催団体(滋賀県高体連)が徴収
23	○共催事業 びわ湖駅伝スポーツフェスティバル2025	広大かつ安全な園内環境を活かし、全国の市民ランナーやジョギング愛好者にも門戸を開いて、駅伝を楽しみ、健康の保持増進や交流を深める場を提供する。	11月 年間1回	共催団体(滋賀県スポーツ協会)が徴収
24	滋賀県中学生ベースボールフェスティバル2025	1チーム9人制とし、2分間でキャッチボールが何回できるかを競う大会。日本プロ野球選手会と共催し、スポーツ・健康づくりの推進を図る。	12月 年間1回	2,000円以下
25	○共催事業 BIWAKOクロカン2026 ・第37回全日本びわ湖クロスカントリー大会 ・第11回全国中学生クロスカントリー選手権大会	広大かつ安全な園内環境を活かし、全国から集った選手による大会を開催し、中・長距離選手の強化・育成・発掘を行うとともに、相互の交流を深める場を提供する。	2月 年間1回	共催団体(京都新聞滋賀本社)が徴収
26	全国の仲間と深めよう 競いあおう 第15回びわ湖カップなでしこサッカー大会 U-12	広大な芝生ランドを活かし、全国から選りすぐられた少女サッカーチームによる大会を開催し、スポーツを楽しみ、仲間と交流を深める場を提供する。	2月 年間1回	15,000円以下
27	○共催事業 滋賀県スポーツ少年団 ラグビーフットボール大会	滋賀県内のラグビーの普及・競技力向上とラグビーを通じて小学生年代の心身の健全な育成に寄与する。	3月 年間1回	共催団体(滋賀県ラグビー協会)が徴収
28	○共催事業 スポーツイベント「ほほえみスポーツ鬼ごっこ」	老若男女が誰もが気軽に取り組み、スポーツをすることで得ることができる喜びを、多くの方に感じてもらうことを目的に実施する。	3月 年間1回	共催団体(NPO法人YASUほほえみクラブ)が徴収
29	○共催事業 第27回日本オープンディスクゴルフトーナメント	日本ディスクゴルフ協会等と連携し、スポーツゾーンの広大なフィールドを活かしてプロ・アマチュアのトーナメント大会を開催し、競技普及と選手育成、生涯スポーツの振興を図る。	7月 年間1回	共催団体(日本ディスクゴルフ協会)が徴収
30	○共催事業 びワイチプラス体験イベント	滋賀県観光交流局びワイチ推進室と協力し、来園者にサイクリングの楽しさ、びワイチの魅力を伝える。	5月 年間1回	無料
31	希望が丘ディスクゴルフ大会2025	広大なフィールドと常設コースを活用し、滋賀県フライングディスクゴルフ協会との協働により、ディスクゴルフの魅力を広げるため県内外から参加者を募る大会として開催する。	9月 年間1回	2,000円以下
32	社会教育・生涯学習の推進 希望が丘アウトドアスクール	県内中・高等学校・大学・専門学校等と連携し、勤労体験やインターンシップを受け入れるとともに、学校や各種団体への体験活動指導を実践する。また、自然の中での遊びや自然体験プログラムを通して公園内外に関わらず野外活動や自然体験の指導を行う。	通年	10,000円以下

番号		事業名	事業内容	開催予定日	参加費
33	社会 学習の 支・援 生涯	クラフト&フィールドゲーム	各ゾーンにおいて、来園者・利用者のニーズに応じて体験プログラムを提供する。体験機会を広めるため、夏休みや休日に気軽に親子で体験できる機会を設ける。	通年	1,000円以下
34	自然を 体験し 楽し みなが ら学ぶ 場／宿 泊体験 ・自然 学習	“きぼっこ体験事業” ちびっこファミリー自然とあそぼう！	家庭や地域において子どもが人や自然と直接ふれあう経験が少なくなっている今日、自然や生きもの等への関心が増える年齢期の子どもとその家族を対象に自然や美しいものに感動する心や子ども同士の交流を通して思いやりの心を育む機会を提供する。	4月・6月・9月・ 11月 全4回 140人	500円以下
35		“きぼっこ体験事業” 希望が丘里山楽校	新緑の希望が丘で、異年齢の子どもたちが共同生活・体験を通して自主性・協調性を身に付けるとともに、自然とのふれあいや里山体験により、環境や生態系への気づきを得る場を提供する。	5月 年間1回	8,000円以下
36		“きぼっこ体験事業” 希望が丘夏休み自然塾	小学3年生から小学6年生の児童たちが、専門家の指導のもとで植物や生きものの調査研究を行い、自然や環境への理解を深める場を提供する。	7月 年間1回	25,000円以下
37		“きぼっこ体験事業” 希望が丘林間スクール	子どもたちが生活体験や自然体験活動等を通して、自主性・協調性・社会性を身に付ける場を提供する。	12月 年間1回	8,000円以下
38		○共催事業 第57回滋賀県スポーツ少年大会	滋賀県スポーツ協会等と連携し、滋賀県下のスポーツ少年団員を対象に、スポーツ・文化学習・交流交歓等の活動や集団生活を通して心と身体を育て、団活動の活性化を図る。	8月 年間1回	共催団体(滋賀県スポーツ協会)が徴収
39		○共催事業 滋賀県スポーツ少年団 ジュニア・リーダースクール	滋賀県スポーツ協会等と連携し、地域のスポーツ少年団活動でリーダー的な役割を担える人材の育成と将来へ向けた指導者育成を図る。	12月 年間1回	共催団体(滋賀県スポーツ協会)が徴収
40	自然 学習	希望が丘自然観察会	季節に応じたテーマを設定し、公園内を散策しながら自然観察を行い、自然や生態系への興味・関心を高める場を提供する。	4月・11月・ 3月 全3回	500円以下
41	自然を 体験し 楽し みなが ら学ぶ 場／野 外活動 ・キャン プ	“きぼっこ体験事業” 希望が丘夏休みわんぱくキャンプ	異年齢の子どもたちが、6泊7日の長期キャンプを通して自主性・協調性を身に付けるとともに、克服体験や達成感によってたくましく成長する場を提供する。	8月 年間1回	20,000円以下
42		“きぼっこ体験事業” 希望が丘ちびっこキャンプ	キャンプ経験の少ない小学校低学年(1年生～3年生)の児童を対象に、野外活動や共同生活を通して、自主性や協調性を身に付ける場を提供する。	10月 年間1回	10,000円以下
43		“きぼっこ体験事業” 希望が丘わいわいクリスマスクッキング	クリスマスならではのアウトドアクッキングやクラフトを通して、自然や野外活動への興味・関心を高め、家族の絆を深める場を提供する。	12月 年間1回	3,000円以下
44		“きぼっこ体験事業” 希望が丘春のプチキャンプ	家族で体験するディキャンプを通して自然探究や野外活動への興味・関心を高め、創造力を豊かにする機会を提供する。	3月 年間1回	2,000円以下
45		○共催事業 希望が丘ふれあいキャンプ ～病気の子どもたち・障がいのある子どもたちとともに～	NPO法人多幸等と協働し、病気や障がいを持つ子どもたちとその家族が楽しくキャンプを行えるように支援し、自然や野外活動への興味・関心を高め、絆を深めることができる場を提供する。	①4月・②9月 の年間2回	共催団体(NPO法人多幸)が徴収
46		希望が丘キャンプリーダー体験説明会	新規希望者を対象にキャンプ場利用者の対応や事業企画立案・運営に関わる基礎的な説明会を開催し、登録、全体研修会につなげていく。	4月 年間1回	1,000円以下

番号		事業名	事業内容	開催予定日	参加費
47	自然を体験しながら学ぶ場／野外活動・キャンプ	希望が丘キャンプリーダー研修会	キャンプリーダーに登録している学生を対象に、自然体験や野外活動に関する知識・技術の研修を行い、スキルアップを図る。	通年	3,000円以下
48		希望が丘ファミリーキャンプフェスタ	自然の中での野外活動を通して、日常では味わいにくい体験や感動を家族や仲間と分かちあえる場を提供する。	7月 年間1回	6,000円以下
49		○共催事業 希望が丘リトリートキャンプ ～引きこもりの人へのサポート～	NPO法人多幸等と協働し、引きこもりの人が楽しくキャンプを行えるように支援し、自然や野外活動への興味・関心を高め、心身の健康を取り戻すことができる場を提供する。	11月 年間1回	共催団体(NPO法人多幸)が徴収
50		○共催事業 輝竜キャンプ	公益財団法人竜王町地域振興事業団と協働し、小学生を対象に、野外活動や共同生活を通して、自主性や協調性を身につける機会を提供する。	8月 年間1回	共催団体(滋賀県キャンプ協会)が徴収
51		○共催事業 キッズ防災キャンプ	多様な団体と協働し、災害時に備え不便や不自由を体験することで、「人とのつながり」「協力し支え合うこと」が大切であることを伝え、学ぶ場を提供する。	1月 年間1回	10,000円以下
52		○共催事業 キャンプインストラクター養成講習会	滋賀県キャンプ協会と協働し、日本キャンプ協会公認のインストラクター資格取得のための講習会を行い、キャンプ指導者の育成を図る。	11月 年間1回	共催団体(滋賀県キャンプ協会)が徴収
53	自主事業	フィールドアスレチック事業	俵藤太百足退治をモチーフに設置されたロープと丸太との遊具で遊びながら体力と健康づくりをする。36ポイントの他にお城ジャングル(9ポイント)、幼児コース(11ポイント)を開設。幼児から大人までの幅広い人々に、自然の中での体力の向上や家族サービス、校外学習の場としての役割を担う。	令和7年4月～8年3月 (通年)	
54		グラウンド・ゴルフ事業	グラウンド・ゴルフ場は4コース32ホールで運営。自然豊かな公園の特性を生かし、子どもから高齢者まで誰でも楽しめる生涯スポーツの活性化の一翼を担うとともに、県民の健康増進を図るため実施する。	令和7年4月～8年3月 (通年)	

後援事業		第33回全国中学校駅伝大会	中学校教育の一環としてわが国特有の駅伝文化を継承する機会を広く与え、心身ともに健康な中学校生徒を育成するとともに、中学校生徒の相互の親睦を図る。	12月 年間1回	参加費 後援団体(日本陸上競技連盟)が徴収
------	--	---------------	--	-------------	--------------------------